



船穂のマスカット・オブ・アレキサンドリア 覚悟をもって産地を守り抜く

就農したきっかけは
実家が営む農業に携わっていたので、「跡を継ぐのが当たりまえ」自然とそんな風に思っていました。高校卒業後は本格的に農業の道へ。父が栽培するブドウ作りをする中、地元後継者クラブにも所属して、先輩たちの話を聞くなど勉強する日々でした。プラウエア、ネオマスカット、キャンベル等、色々な品種を栽培していました。

新しい技術の導入
当時、ブドウは露地栽培が主流で



したが、ハウス（通称 岡山型）を導入。
50年代頃からは、安価で被覆等の作業が簡単にでき、従来のものより耐久性が高いアーチ型ビニールハウスが確立し、徐々に普及していきま

本格的に栽培を初めて

就農して5年目に、約17坪のガラス温室で「マスカット・オブ・アレキサンドリア」（以下マスカット）の栽培をはじめました。ブルドーザーを運転して一から全て自分の手作りです。最初は手探りで、分からないなりに一人で管理をしていました。人の力を省力化できる所は機械を導入し、手作業にかける時間をなるべく作るようにして、「適宜適作」で高品質に仕上げるにはどうしたらいいか、常に考えていました。

マスカット栽培の転換期

「マスカットはガラス温室でしか栽培できない」これが当時の常識でしたが、たまたまビニールハウスでマスカットを栽培した人がいて収穫期を迎えると、その出来は温室栽培と遜色ないものでした。そこから一



気にビニールハウスでのマスカット栽培が広がりました。私も露地栽培を徐々にマスカットのハウス栽培に切り替え、約27坪の温室とあわせて拡大していきました。

今後は

マスカットは、他の品種と違って市場で安定した品質を求められます。樹齢と天候に加えて、今まで培ってきた経験と知識を活かし栽培技術を進化させることが大切だと思います。船穂マスカット産地の灯が消えぬよう、後継者も育てながら、真摯にマスカット栽培を続けていきたいと思えます。

船穂町ぶどう部会

部会員数：103人 部会長：浅野 三門さん
栽培品種：マスカット・オブ・アレキサンドリア、シャインマスカット
瀬戸ジャイアンツ、ニューピオーネ、オーロラブラック、紫苑
主な出荷先：岡山県内、大阪、東京

「マスカット・オブアレキサンドリア」は、6～9月頃まで船穂直売所で販売しております。ぜひご賞味ください。

■船穂直売所 〒710-0261 倉敷市船穂町船穂 2907-2
Tel 086-552-5000 営業時間 8:30～17:00



【船穂町ぶどう部会】

平本 雅夫さん

ひらもと まさお / 69歳
就農して51年 / マスカット・オブ・アレキサンドリア70%、シャインマスカット8%を
経営。